



# Let's TAND便利

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

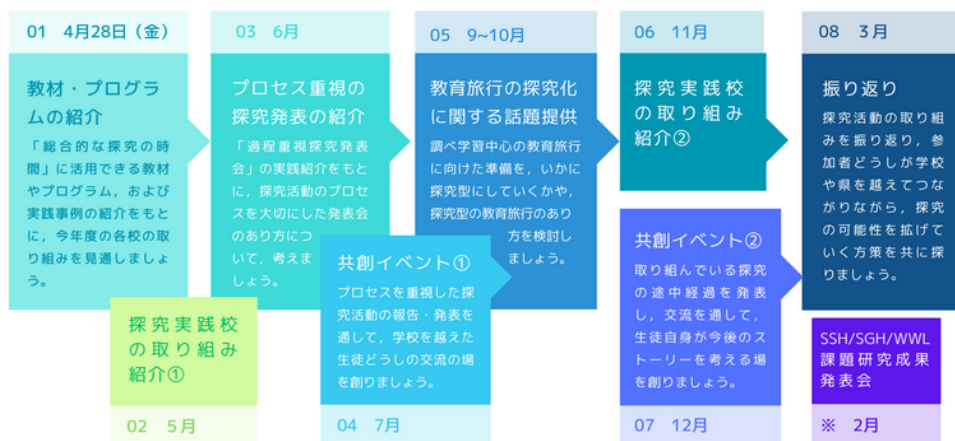
## 今号の内容

探究ミニセミナー & 交流会【第1回】の開催報告

数学科ワークショップ  
全体会 2023春の様子

## 「私たちの探究をつくろうプロジェクト」探究ミニセミナー & 交流会

高校探究プロジェクト「総合的な探究の時間」実践校を中心に、全国の学校から、どなたでも参加可能です！



## 探究の目的を再確認し、自分たちの取り組みを見直したり、見通したりするためのレンズの獲得

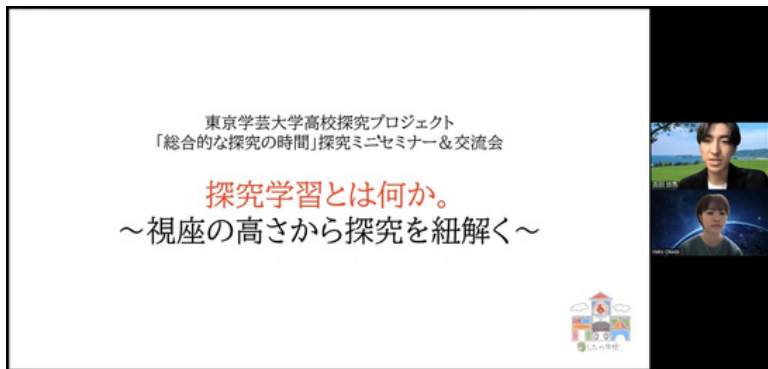
高校探究プロジェクトでは、昨年度、5校の実践連携校とともに「私たちの探究をつくろうプロジェクト」を立ち上げ、高校生の生の声を聴く交流会やイベントを実施してきました。4月より、全国のどの学校からでも、どなたでも参加可能な「探究ミニセミナー & 交流会」を全8回開催します。探究的な学びの実装化・充実に向けた情報共有・交流の場としていきます。

4月28日(金)に、全国の高等学校の先生方を中心に、高校生、大学生・大学院生、大学教員、民間企業の方など、様々な立場の方から、定員を超えるお申込みをいただき、第1回を開催しました。

本プロジェクトの西村リーダーより、「学校としての『総探』の目標はなんですか?」という問いかけでスタートしました。本来は、手段であるはずの○○をすることが目標になってしまっていないか、探究にはさまざまなカタチ、レベルがあるので、目標と生徒の実態に即して、学びをデザインしていくことが大事なことを確認しました。そして、目標が決まると「評価はいつ、何のためにしますか?」という問いが生まれます。活動の最後に評価結果を知らされても、生徒はその先につなげにくいです。生徒の資質・能力を伸ばす上では、探究の過程で、目標に対する現在位置、次に向かうべき方向、そこへの行き方の3点について、個々の生徒が認識できるような評価をすることが必要です。

「共創イベント①②」の交流会で、探究の過程、プロセスを交流することは、このような評価の機会につながると考えています。

第1回のセミナーの目標は「自校の総探の目標を再確認し、いままでの取組を見直したり、これからの取組を見通したりするためのレンズを獲得する」ことです。この目標のもと、話題提供をしていただきました。



## 参加者から頂戴したご感想

・自分自身が生徒時代に「総合的な探究（学習）の時間」を経験していない教員にとって、探究を通じて大きな気づきを得たり、目標を発見したり、行動を起こしたりした方のお話を聞くことができたのは意味があったと思います。「総合的な探究の時間」は、教科の授業以上に教員と生徒がともに作り、改善していく意識が必要であると感じました。（高校教員）

・主語は生徒とわかっている、教員のマインドセットを変えることは非常に難しい。今回の企画も大変有意義でしたが、もっと生徒たちの生の声を聞くことができるセミナー等を企画いただきたい。先生も一緒に探究する、探究を楽しむ、そうでないと形だけの押し付けになってしまうと感じました。（指導主事）

・勤務先での若手教育でも、視野の広さと視点の深掘りについて、バランス的な話をしています。視座の高さと低さの関係に似ているようにも感じました。今後も引き続きこのような機会をご提供いただけると嬉しいです。（一般）

・地方には子どもたちが様々なことに挑戦できる環境が少ないと改めて気付かされました。また、高校時代の探究活動で多様な方と出会ったことで視座が高くなり、大学生になった今も自分の人生という探究を続けられているのだと感じています。どこにいても子どもたち一人ひとりが「気になる」「楽しい」「面白い」「好き」と思えるものに“とりあえず”挑戦し、自然と視座を変えていける探究学習を生み出していくにはどうしていくべきなのか、探究を探究していきたいです。（大学生）

・全体共有のお話をお伺いして、教員も生徒と一緒に目線で探究していくことに大変共感しました。一方で、授業をどのように探究的にしていけばよいかは今後の大きな課題であり、今年度のワークショップを通して学んでいきたいです。（高校教員）

・探究活動において、生徒に対してどのようなアプローチを取るかはよく話題になりますが、このような場に参加する教員を増やしていく、このような話題に関心を持つ教員を増やしていくことについて話したいと思いました。（高校教員）

## 視座：「どの立場で」物事を見るか/考えるか

話題提供者：「合同会社あしたの学校」CEO 吉田 悠馬 氏（慶応義塾大学4年）、COO 岡田 羽湖 氏（国際基督教大学4年）

話題提供者のお二人は、青森県のご出身で、高校生の時に「第14回日本の次世代リーダー養成塾」に参加したことがきっかけで、都会と地方の教育格差の解消を目指した学生団体を立ち上げられました。高校時代の活動を通して「応援してくれる大人がたくさんいる」「学生の力が必要とされている」「自分たちの青森での活動が東北の外に届いている」「挑戦したい高校生は東北にも多くいる」ことなどに気づき、この気づきが今のモチベーションにつながっていると話されたことが印象的でした。

内容は、探究を進めていく上で必要となる視座の上げ下げについて。視座の上げ下げによる探究活動の取り組みをご紹介いただきました。そして、昨年夏に設立された「合同会社あしたの学校」における「総合的な探究の時間」の教材開発や学校支援についてもご紹介いただきました。最後に、「みなさんの学校における探究活動は、視座を上げる探究ですか？視座を下げる探究ですか？」との投げかけのもと、ブレイクアールームでの交流の時間に入りました。

ブレイクアウトセッションの時間は短かったのですが、全体交流時にチャットに多くのコメントが寄せられ、西村リーダーから「お二人にとって『福岡での体験』が『インパクト』だったのだと思います。自校の生徒に、どうしたら『インパクト』を与えられるか」といった投げかけもあり、協議も盛り上がりました。終了後のアフタートークにも多くの方に残っていただき、大変有意義な時間となりました。

## 数学科ワークショップ全体会 2023春 開催！

4月29日（土・祝）に、数学科ワークショップ全体会を開催しました。当日は夜8時からの開催にも関わらず、たくさんの参加者にお集まりいただきました。

教員対象ワークショップでは、6チーム目となる新規チームの結成が決まり、指導主事・各学校のリーダー向けワークショップでは、年3回程程度の開催に加えて、新しい2つの企画を進めることになりました。

当日は、小学校算数の問題を扱ったミニワークを通して、探究的な学びの実現に向けた目線合わせを行いました。今年度の授業研究やワークショップの参加に向けて、早速、参加者の方から今後の意気込みや嬉しいお声をたくさんいただいております。

「今日、自分が『あっ！』ってなった感動を生徒にも体験してほしい。がんばります！」「業務や子育てで外に出るのも難しいため、今回いろいろな先生と繋がただけでも参加したかがありました。」「数学を考えているときに楽しいという本来の姿を再確認できました。指導主事として先生方と関わる上で大切にしたいです。」

ここが悩ましい！日頃の数学授業の探究化 対談セミナーのご案内

5月19日（金）には、プロジェクト数学班の成田先生と夏原先生によるトークライブ風の対談セミナーも開催します。ぜひ右のQRコード、または以下のURLよりお申込みください！  
<https://g-tanq.jp/workshop#suugakuws>

